

研修テーマ	市天然記念物慈眼寺シダレザクラ診断研修	参加者	埼玉支部 15名
講師	講師無し 慈眼寺住職および桜守の会代表	場所	坂戸市慈眼寺境内
資料	過年度樹木診断カルテの写し	記録	松本竹吾
目的	平成12年に診断・治療したシダレザクラの樹勢把握と治療方法等の検証 (平成16年に発刊した「樹木医治療カルテ」の改定版作成に伴う過去治療事例の検証)		

■研修内容

(第一部)シダレザクラの診断

参加者を3班(1班5名)に分け、シダレザクラの外観診断を実施。

今回の診断はシダレザクラの保護・保全を目的とし、健全度と維持管理に必要な基礎データの収集を行った。調査には「景観重要樹木診断マニュアル」の健全度調査票を用い、シダレザクラの位置、侵入防止柵の大きさ、樹高、幹周囲長、根元周囲長、樹冠幅について計測を行したうえで外観診断を行った。

診断調査後、各班の診断結果について意見交換を行った。なお、本診断の結果は「樹木医療カルテ」改定に伴う治療事例報告であることから、各班に調査結果データの提出を要請した。



東側からの景観  
(9月13日撮影)



東側からの景観  
(10月10日撮影)



根元東腐朽部の状況  
(10月10日撮影)



大枝の過去治療部と子実体発生状況  
(9月13日撮影)



外観診断の調査風景 (10月10日撮影)

## (第二部) 診断結果の発表と桜守の会の皆様との意見交換

外観診断後、本堂にてシダレザクラのドローン撮影映像や近年の管理履歴などの説明を受けた。次いで、診断結果について各班ごとの報告を行い、桜守の会の皆さまと意見交換を行った。ご住職や桜守の会の皆様からは、過去の詳細な治療履歴について不明な部分があることとシダレザクラを今後どのように保護・保全をしていけば良いか明確な指針や具体的な治療方法などがわからず苦慮しているとの報告があった。



本堂での意見交換会および研修会の状況

### ■ 診断結果の概要と樹勢復元に関する考え方

**形 状** 樹高 11m、幹周囲長 2.7m、根元周囲長 4.1m

**診断結果** 樹冠上部および大枝の枯死・腐朽、梢端枯死などがあり、全体樹形を維持してはいるものの崩壊しつつあり、枝、幹、根の各部位に腐朽や虫害、病害、子実体の発生が認められた。また、樹木保護材の破損、腐朽がみられ適切な処置が望まれる。

短期的には、枯れ枝や腐朽枝の切除、土壌改良や施肥が必要だが、長期的な視点での樹勢回復については、病気の同定や土壌の物理的・化学的に詳細な分析を行ったうえで、有効な治療法を導き出すことが必要と考えられる。

